



岐阜県におけるクマハギの実態

森林所有者を悩ませるクマハギ

ツキノワグマによる造林木の剥皮（以下、クマハギ）は、木材の価値を著しく低下させ**経済的な損失**をもたらし、森林所有者の森林管理意欲を大きく減退させます。また、幹の全周を剥皮されると造林木は枯死し、これによる森林機能の低下も心配されます。

岐阜県では、スギ、ヒノキのクマハギ被害が報告されています。しかし、その実態は不明な点が多く、これまで十分な被害防除対策が行われてきませんでした。

そこで、効率的な被害防除対策の基礎資料とするため、県内を対象とした被害の実態調査を実施しました。



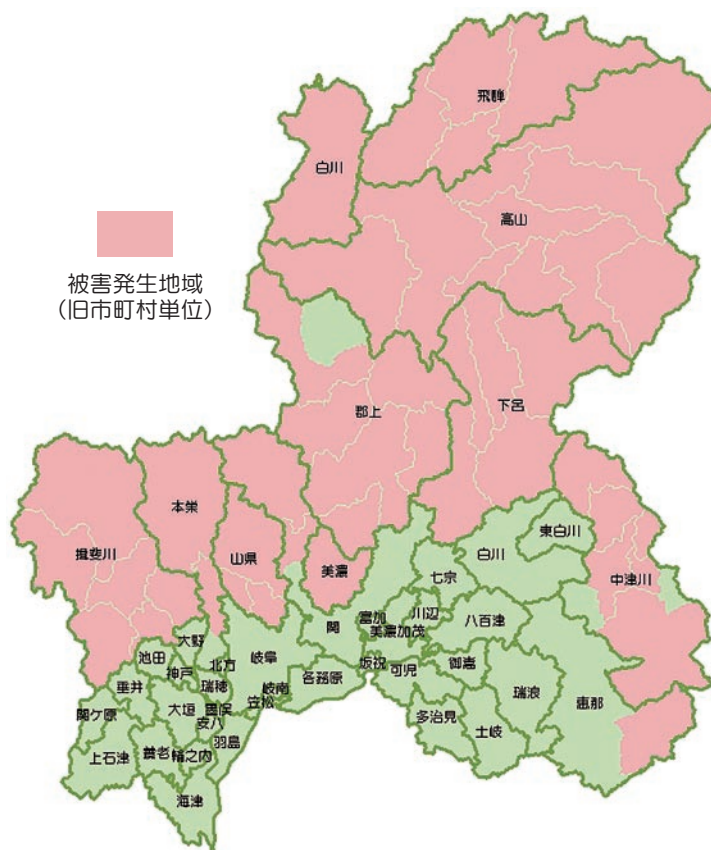
幹の全周を剥皮されたスギ

どこで発生しているの？

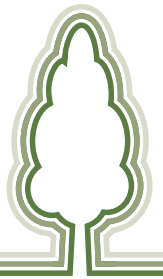
クマハギの発生が確認された地域は右図のとおりです（2008年12月現在）。**ツキノワグマが生息するといわれるほとんどの地域**においてクマハギが発生していることが明らかになりました。

これら被害発生地域やその周辺では、定期的な見回りなどにより、被害の早期発見に努めることが重要です。

なお、地域によっては、シカによる剥皮害が混在しているため、次頁の特徴を参考にしながら適正な加害種の判別を行っていく必要があります。



* 「森林被害報告年報」（県森林整備課）から代表的な箇所を現地確認し作成



地域で異なる被害特性

被害地域のうち本巣、揖斐川、恵那、飛騨地域では、幹の全周が剥皮され樹木が枯死するといった激しい被害が発生していました。これらの被害地では、**枯死木の本数が多いほど被害木の本数も多い**傾向が見られました。

一方、枯死木が見られない地域では、森林内に入らなければ被害に気づかないため、注意が必要です。また、幹の斜面山側のみ被害を受けているパターンが多いことから、斜面谷側からは被害に気づかない可能性があります。このため、**被害確認は多方向から行う**必要があります。



枯死木が見られる被害地

被害防除の留意点は？

県内では、荷物梱包用のポリエチレンテープを幹へ巻き付ける「テープ巻」を主体とした被害防除対策が進められています。防除の効果をより高めるためには、**被害の特徴を考慮した被害防除対策**を実施することが重要です。



テープ巻による被害防除

被害地の調査から明らかになった「クマハギの特徴」と「被害防除対策の留意点」

【クマハギの特徴】

- ・剥がされた樹皮片は、大きく、幹に残っていることが多い。
- ・樹皮が剥がされた幹には、平行な直線の歯形が残っていることが多い。
- ・成長がよい（太い）木ほど被害を受けやすい。
- ・傾斜地では、幹の斜面山側を剥皮されることが多い。
- ・剥皮は地上0～50cm程度の高さを起点としており、根元から上に向かって行われていることが多い。

【対策の留意点】

- ・根元（傾斜地では特に山側）を確実に保護する。
- ・地上1m以上の高さまでを保護するのが望ましい。